

研究主題	<p>4. &lt;人権・共生&gt; 家庭・学校・地域が連携して人権共生意識を高めよう</p>
------	--

## 磐田市立東部小学校PTA

### はじめに

#### (1) 地域の概要

磐田市は、静岡県西部、西に天竜川、南は遠州灘に接する人口約17万の市であり、国指定文化財の銚子塚古墳、遠江国分寺跡、旧見付学校附磐田文庫など、また、とんぼの楽園桶ヶ谷沼など、歴史や文化財、自然豊かなまちである。磐田原台地には数々の工業地帯もある。さらに、サッカー、ラグビー、卓球など、スポーツのまちとしても有名である。そのような環境において、磐田市は「ふるさとを愛し 未来をひらく 心豊かな磐田市民」を教育目標に（幼）小中一貫の教育活動を進めている。



〈磐田市マスコット しっぺい〉

#### (2) 学校の概要

磐田市立東部小学校（以下、東部小）は、磐田市の東部、磐田原台地の南東縁と水田地帯の境にある。学校北側の台地には、NTNやヤマハ発動機などの工場が立ち並び、国指定文化財の御厨古墳群、神明の森やひょうたん池（湧水池）、由緒ある寺社など、豊かな文化財や自然にも恵まれている。さらに、サッカーのジュビロ磐田のヤマハスタジアムがあり、ラグビーの静岡ブルーレヴズの試合も行われる。令和2年（2020年）にはJR御厨駅が開業し、周辺の住宅地化がさらに進むと共に新設道路に伴う環境の変化が大きくなっている。

今年度東部小児童は、814人（R6.9.1現在 そのうち外国籍児童が約70人）。学級数は34学級（内、特別支援学級8学級）であり、学校教育目標である「夢をもち みんなと学ぶ たくましい子」を目指している。その目標を達成するための重点目標として「(共生)自分も相手もみんなも大切にする子」「(自立)自らの思いをもって、粘り強く取り組む子」を掲げ、「ちがいを力に」を教職員の合言葉に教育活動に取り組んでいる。

平成8年度、きれい（K）ともだち（T）あいさつ（A）いっぱい为学校にしたいという子供たちの願いから提案されたKTA活動は、現在も脈々と受け継がれている。平成29

年度には、子供が中心となり、学校の自慢をデザインした東部小のキャラクター「東 武将」くんが誕生し、その胸にはKTAS(S: 芝生を大切に)の文字が掲げられている。また、校庭の芝生化に併せ、平成16年度からタグラグビーを教育活動に取入れ、ラグビー精神をもとに人間形成「心を育てるタグラグビー」を行っている。

P T A活動では、外国籍児童の増加に伴い、平成16年度「教育の国際化」を学校が取り組むテーマの一つとし、その中の一つ「地域の国際化」をP T A活動で啓発するとした。それにより、「交流部」ができ、外国籍児童の父母との交流会が行われた。現在は「文化交流部」として活動している。



〈東部小マスコット 東 武将君〉

## 1. 努力目標（研究の重点）

### (1) 生活環境の変化

以前は地域の人々とのつながりが密で、子供たちは家庭だけでなく地域ぐるみで育っていた。しかし時代の変化に伴い核家族や共働きの家族が増え、また行動規制がかかるような環境の中で、子供たちを取り巻く環境が大きく変化した。それにより外で遊ぶこともなくなり、友達同士の関わりが減り、室内でのゲーム・SNSで遊ぶことが増えてきてし

まった。

### (2) 目標

子供・保護者・地域に係る活動を通じて子供たちの感性を広げ、また保護者同士の関わりを増やしたいと考えた。

①個性、多様性を理解すること

②他文化共生、すべての人が互いに認め合うこと

③子供だけでなく保護者、地域の大人の関わりといった「違い」を力にすること

## 2. 実践の経過

### (1) 図書ボランティア活動

本校には掲示などの環境や本の整備・読み聞かせをするボランティアグループがある。メンバーはP T A会員や地域の方で構成されている。

図書室の環境整備では、廊下や図書室内に季節に合った掲示をしている。子供たちは、図書室に行くのが楽しみになり、本を手にするよいきっかけとなっている。

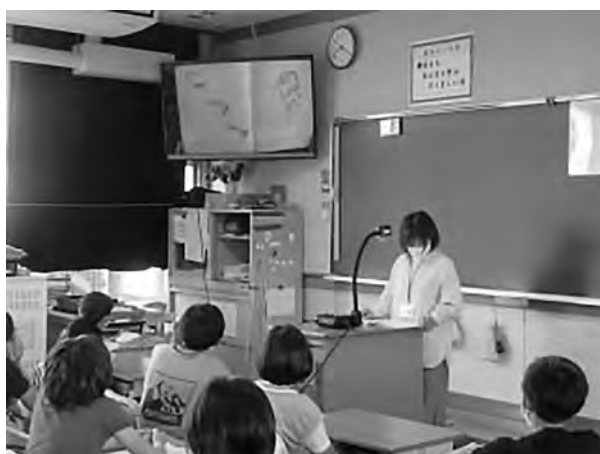


また、年間2回、読書月間があり、読み聞かせのボランティアが朝読書の時間に全学級で数回ずつ読み聞かせをしている。子供たちは床に座って、読む人を囲んで話を聞いたり、



〈図書室の飾りつけ〉

大型モニターに映った絵を見ながらお話の世界に浸ったりと、すてきな朝の読書タイムを過ごしている。



〈読み聞かせボランティア風景〉

## (2) 挨拶運動

本校の自慢として「あいさついっぱい」がある。

家庭や地域とともに取り組む活動の一つとして、PTA役員による挨拶運動をひと月に2回ずつ、6か月間行っている。朝集団登校をしてきた子供たちを校門や昇降口で迎え、挨拶をしている。元気よく挨拶をする子、恥ずかしそうに小さな声で挨拶をする子、声こそ出ないが会釈をしていく子など様々である。

学校の委員会活動でも、「あいさついっぱい」を目指して、外国の言葉で挨拶をしたり、挨拶名人を探したりと工夫された活動が行われ、子供たちの挨拶に対する意識が向上した。

地域の方からも、子供たちの挨拶が良くなったという言葉をいただいた。今後も「あいさついっぱい」が自慢として広がり続けるように、学校・家庭・地域で取り組んでいきたい。



〈PTA 挨拶運動〉





〈児童による挨拶の取組〉

### (3) 運動会でのKTAダンス

近年は、熱中症予防のための時間制限や密になることが避けられる環境の中で運動会開催が行われている。そのような環境では子供たちの日々の成長を披露する場のみとなり、子供と保護者が一体となる活動が難しくなってきた。令和5年度は、以前のような保護者が参加する種目として「KTAダンス」をPTA役員主体で取り入れた。

**KTAダンスとは、**

「東部小の自慢はね。のぎわの里にKTA。  
Kはきれい。Tはともだち。Aはあいさつ。  
それが自慢。東部小の宝物。それが自慢。  
KTA。」の音楽に合わせ、子供、教職員、保護者が楽しく踊るものである。

日頃から踊っている子供たちが先生のように



〈KTAダンス風景〉

に教える姿や笑顔で笑いながら踊っている姿が印象的だった。

### (4) PTAの日

東部小学校では毎年PTAの日としてバザーが開催されている。バザーを行う目的としては地域の方々とのつながりを深め地域に貢献し、各家庭で不要になったものを安価で販売することにより、本来なら捨てられてしまうものを収益に変え、子供たちの教育活動や学校の環境整備に充てるところにある。

バザーを実施するにあたり、コロナウイルスが蔓延する前までは地域の方もバザーに参加していたが、近年では感染症対策を考えながらバザーを実施することになり、小学校在籍中の子供と親のみの参加となっている。令和5年度のバザーでは、A日用品、Bおもちゃと文具、C衣類等、D食品の4つの販売ブースに分けて販売を行った。

販売ブースでは子供が自ら欲しいものを見つけ、自分でお金を支払うことで金銭のやり取りを学ぶことができた。さらに、異なる学年の児童や先生、保護者との交流の機会ができたことでいつもとは違う人間関係を築くことができた。

バザーが二部制ということもあり合間で見



〈ネパールの文化紹介〉



〈スウェーデン発祥のモルック〉



〈バザー風景〉



〈日本文化の輪投げ〉

童が楽しめるようにモルック、英語でのジャンケン、輪投げのブースを設けることでバザーに飽きることがなく異文化の遊びを通して日本以外の文化を知ることができた。

#### (5) 花いっぱい

各地域ごとに花壇があり、子供・保護者が花植えを行い、当番制で水かけを実施している。きれいに花が咲き続ける姿が印象的である。またPTAの日に、広報にて各地域の花壇の写真が撮影された新聞を発行している。

#### (6) PTA 奉仕作業

半年に一度PTA奉仕作業として普段子供たちではできないところの掃除や、校庭の草刈りを行い、子供たちが良い環境で学校生活を送れるように努めている。



〈草取り風景〉



〈校内掃除風景〉



〈ひょうたん池出前講座〉



〈P T A 活動写真〉

### 3. 実践の反省と評価

新型コロナウイルスの感染拡大によるコロナ禍で、子供たちの成長にはさまざまな影響があった。コロナ禍において、学校の行事や家庭での体験活動が減少し、それにより子供たち自身がストレスを抱えやすい環境にあった。

必要最低限の活動となっている中で、子供たちの感性を養い、また保護者同士の関わりを増やすためには、どのような活動をしていくべきか悩まされることは多くあったが、運動会でのP T A種目や、P T Aの日（バザー）での多文化交流などの活動を通じて、子供・保護者の笑顔が見られたことが、何よりも救いだったと感じた。

学校行事や体験活動は、目標達成や自己効力感を高めるために重要である。今回の活動は、そのような観点から一定の成果が得られたと考えられる。

P T A活動の継続は、保護者の方全員に受け入れられているものではなく、活動を進める中で厳しい声も聴くことがある。P T Aの在り方を考え、持続可能に形で継続・発展できるようにつなげていきたい。

### 4. 今後の課題

多様性を認め合い、共に生きる取り組みとして、いつでもどこでも、誰とでも、挨拶の声を響かせようと、様々な国の挨拶を取り入れた挨拶活動をしたり、多様な人が参加できるような交流の場を提供し、継続的に実施したりしていくことが重要だと感じる。そのために誰でも気軽に参加できる全員参加のP T A活動を目指していきたい。